

令和 7 年度

熊本県立大学 環境共生学部

環境共生学科 環境資源学専攻

特別選抜

農業・林業・水産・工業科学学校推薦型選抜

小論文

問題用紙

【注意事項】

- (1) 試験開始の合図があるまで、問題用紙を開いて中を見てはいけません。
- (2) 問題用紙は、この表紙を含めて 4 ページあります。
- (3) 解答用紙の指定の欄に、受験番号、氏名を記入しなさい。
- (4) 問題は、全部で 3 問あります。3 問全てに答えなさい。
- (5) 解答は、必ず解答用紙に記入しなさい。
- (6) 問題用紙の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- (7) 試験終了後、問題用紙及び下書き用紙は、持ち帰ってください。

(試験問題は、4 ページからです。)

(試験問題は、4 ページからです。)

次の文章を読んで、以下の問1～問3に答えなさい。

著作権保護の観点から、問題文は掲載していません。

出典：環境省「令和5年版 環境・循環型社会・生物多様性白書」より一部抜粋し、一部改変

<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/r05/pdf/full.pdf>

(注) 生態系サービス：生態系がもつ機能の内、人類の利益になる機能

生物地球化学的循環：地球上の物質が生物および無生物の間を移動し、循環すること

問1 下線部(1)について、「今後困難になる」とは具体的にどのようなことか、100字以内で述べなさい。

問2 下線部(2)について、窒素の生物地球化学的循環はすでに高リスクの領域にあるとされている理由を200字以内で述べなさい。

問3 下線部(3)について、今後このような「変化」を引き起こさないためにはどのようにすればよいか、あなたの考えを300字以内で述べなさい。